

熊本大学工学部ニュースレター No. 27

かけはし

2016 April 4

あなたの“ヤル気”を応援します

トビタテ!

私、将来は熊本で就職したい!

この海外派遣プログラムに参加したい!

自分のできる“地方創生”をちゃんと考えてみようと思う...

私は世界を肌で感じたい! 留学だって夢じゃない...

熊本の魅力を活かした新しいビジネスに挑戦したいな!

社会という大海原に漕ぎ出すための力をつけるために

—熊本大学工学部で、君自身を大きく成長させよう—

工学部長 宇佐川 毅

熊本大学工学部は、世界に冠たる最先端研究を推進することのできる研究環境と、学部から大学院までの系統的かつ高い水準の工学教育を提供する教育環境を兼ね備えています。平成25年に採択された「研究大学強化促進事業」、平成26年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」「地(知)の拠点整備事業(COC)」につづき、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を平成27年に受けています。これらの事業を通じ、県内企業・地元行政機関や大学等と連携し「オール熊本」での産学官連携の活動拠点として活動するとともに、欧米からアジア・アフリカ各国を含む全世界

に向けて大きく開いた窓としてグローバル化推進の拠点として教育の幅を大きく広げています。さらに世界を先導する国際水準の最先端研究拠点として、パルスパワー分野やマグネシウム合金「熊大マグネシウム」分野などの国際的な研究活動を展開しています。

皆さんが熊本を起点として世界に飛躍するための環境が、ここ熊本大学工学部にあります。

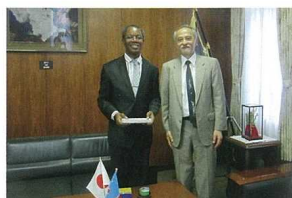
世界的な大競争時代に入って久しい今だからこそ、日本の産業を牽引してきた「ものづくり」の重要性はますます高くなると考えられます。熊本大学

工学部附属「グローバルものづくり教育センター」では、長きにわたり学生創発コンテスト「もの・クリCHALLENGE」や学生による学生のための創造活動支援、日韓合同デザインキャンプなど国際的な活動を行っており、これらの活動を経験した多くの卒業生が社会で活躍しています。さらに、地元企業を含めた産業界と連携した多様な業種でのインターンシップは、卒業後の進路を決定する上で貴重な情報を得る絶好の機会であり、学生時代に社会性を高め実践的な経験を得ることができます。

キャンパス内には、欧州・アジア・アフリカをはじめ世界各国からの多くの留学生がおり、熊本にいながらにして様々な言語・多様な文化に接することができます。さらに、海外協定校への留学や、国際インターンシップ、さらに大学院においては欧州・アジア地区の大学とダブルデGREEプログラム(注)も準備されており、みなさんの手の届くところに非常に多くのチャンスがあります。

社会という大海原への航海を始めるための準備をするための大切な時間と空間を提供するのが大学であり、熊本大学工学部はそのために必要な環境の整備に取り組んでいます。しかし、大学の準備するチャンスをどのように活用するかは、皆さん一人ひとりにかかっています。自らの未来を自らの力で切り拓くために必要な知識・技術・そして心を、熊本大学工学部で育んでいきましょう。

注：同時に二つの大学院に入学し、両方の大学院の修了要件を満たすことで、同時に二つの学位を取得できるプログラムです。現在、大学院自然科学研究科と欧州・アジア各国の複数の大学と間で実施しています。



TOP GLOBAL UNIVERSITY PROJECT

熊本大学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択され現在さまざまな取り組みをおこなっています。

※国際競争力の向上を図るため、世界トップレベルの大学との連携など国際化を徹底して進める大学に対し、重点的に支援する文部科学省によって平成26年度に開始された事業

スーパーグローバル大学創成支援事業の推進と大学のグローバル化に向けた新組織の設置

学長を機構長とする全学組織「グローバル推進機構」を平成27年3月に設置し、学長ガバナンスとリーダーシップの発揮による全学的なグローバル化推進の組織体制を整えました。また、同機構の統轄下で「グローバル教育カレッジ」を設置し、教育のグローバル化に関する様々な取組を始めており、活動拠点としての専用施設が平成28年4月にオープンしました。



国際交流ネットワーク形成の新たな展開

スーパーグローバル大学創成支援事業開始後、ルワンダ国立大学・ムバジマ大学をはじめとするサブサハラ・アフリカ地域との協定締結、AUN (ASEAN University Network) への加入によるASEAN地域の大学とのアライアンス交流等、新規地域との積極的な海外連携の強化・拡大を図っています。



海外語学セミナーの拡充

平成27年度は協定校であるアメリカ・モンタナ州立大学やイギリス・リーズ大学、ニュージーランド・マッセー大学でのプログラムを新設、年間計8プログラムを実施。コミュニケーション力やプレゼンテーション力を強化する実践的な語学研修とアクティビティ、ボランティア、専門分野に関連した講義の聴講、企業訪問などを組み合わせた様々なプログラムを提供しました。



熊本大学 2015 Summer Program in English 開催

平成27年7月23日～31日の日程で英語によるサマープログラムを初めて実施し、インドネシア、タイ、ベトナム及びマレーシアの交流協定校から36名の学生が参加しました。同プログラムは全て英語で行われ、参加者の日本に対する興味や理解を深めることを目的としています。日本文化体験や講義やフィールドトリップ、高校生との交流など、日本や熊本の魅力を体感できる多彩な内容となりました。

グローバルリーダーコースの設置

学部教育におけるグローバル人材育成を実現するために、平成29年度から文学部、法学部、理学部、工学部に「グローバルリーダーコース」を新設します。コース生は、英語による教養教育科目を含む独自の教育プログラム(GOKOH School Program)を履修し、国際対話力にとどまらず、グローバルリーダーに必要な知力、胆力および専門基礎力を身につけ、3年進級時に所属学部の中で希望する学科・コースを選択することができます。

グローバル科目の開設

グローバル教育カレッジでは海外交流協定校からの交換留学生を対象に英語による科目を20科目開設しました。日本語能力に関わらず、熊本および日本社会と文化等について、さらに深い理解を促すことが期待できます。受講生達は多様な背景を持つクラスメートとのコミュニケーションを通じて、グローバルな視点を身につけることを目指します。

CENTER OF COMMUNITY PROJECT

「地(知)の拠点整備事業(COC)」(平成26年度)

文部科学省

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度)に採択されました。

文部科学省では、平成25年度から、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として「地(知)の拠点整備事業(COC(Center of Community))」事業を実施しています。

どの地域でも活躍できる、幅広い教養を持ち、課題解決に向き合う事のできる人材育成が求められています。我が国が直面する地域課題は、複雑に問題が絡み合うため、解決策の提案が困難な状況にあります。世界のどの地域でも共通に抱える課題であり、地域を考えることが、国際社会の理解につながるものと考えます。そこで熊本大学では、熊本を事例に扱うなど、学生にとって身近な地域を意識させることによって、地域課題解決に向けた基礎的な知識の修得と課題解決のための思考力や企画・行動力を養うなど、地域志向の教育を推進していきます。

熊本県の若者の人口流出を抑制し増加させるためには、雇用の受け皿としての産業振興と地元志向を促す教育が必須であります。「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」では、県を代表する産業である製造業と農林水産業の振興、並びにその施策に絡めた人材育成教育を行い、雇用創出することを目的としています。

世界へはばたく工学部生！

日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度で派遣された工学部 (自然科学研究科) の学生割合



IJEP海外派遣プログラム	工学部生 7/7人
先端科学技術分野における学生国際会議 (ICAST)	8/14人
機械分野のモノづくり交流による国際人育成プログラム	6/6人
欧米及びオセアニア地域における重要交流協定校との全学交換留学派遣プログラム	0/8人
グローバル専門教育スタートアップ事業	21/32人
グローバル・リテラシー基礎能力の養成及び海外留学動機付けの為にドイツ短期留学プログラム	0/5人
STEP (Short Term Experiential Program) in Australia オーストラリア短期国際体験研修	9/31人
ナノサイエンスを先導するグローバル人材の早期育成事業	1/1人
UCLAにおける医薬理工融合型の国際教育プログラム	5/18人
産業革命の聖地ヨークシャーでの次世代グローバルリーダー早期育成事業	1/7人
マッセー大学におけるグローバルリーダー早期育成派遣プログラム	0/6人

留学準備もサポート

留学の準備もサポートしています。

シリーズ留学説明会「留学のすすめ」	留学の手続き、単位認定、就職と留学、留学経験者による体験談紹介など、毎回テーマを決めて、情報提供をしています。
奨学金制度	日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金、文部科学省「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」、熊本大学独自の奨学金「熊本大学国際奨学金」、各国政府奨学金、地域自治体、民間団体等の奨学金があります。
英語力向上を目的とした課外講座	留学のための英語向上を目的に、IELTS/TOEFL対策講座を実施しています。

海外留学をサポート

あなたの海外留学をしっかりサポートします。

留学についての相談は、国際教育課までお気軽にお問い合わせください。各協定校のパンフレットや留学した先輩の体験などの留学関係の資料を閲覧できます。ぜひお越しください。

国際教育課へ (黒髪北キャンパス 全学教育棟A棟2F)

Tel 096-342-2135 E-mail: gji-ryugaku@jim.kumamoto-u.ac.jp

日韓デザインキャンプ参加者から

何かを伝えたい…その気概があれば、できる！

この催しではお年寄りのためのデザインという題で企画から製作までを行いました。6月上旬からSkype等を通して韓国側と協議しながら企画をしていき、会話は殆ど英語でした。初めの頃は難しく感じましたが、自分の意見や見解を伝えようという気概があれば意外と通じることが分かりました。10日間で製品を作成するという一つの目標に向かって共に鋭意努力することで強固な協力態勢が誕生しました。無事作品が完成し、最優秀賞を頂くことが出来ました。大切なのは伝えようと尽力すること。今後も今回の貴重な経験を活かしながら日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

Student's voice

物質生命化学科 3年
山本真大さん

技術だけではなく、モノづくりの本質に触れた

プロジェクトチームは、日本人4名、韓国人4名、台湾人1名の計9名で構成され、コミュニケーションには英語を使用しました。言葉や文化の壁があり、プロジェクトの詳細に関する情報共有、作品の有意性を共有することが最も困難でした。正確な意思疎通の難しさとプロジェクトマネージメントの重要性を学びました。座学では学べないものづくりの楽しさと難しさ、また外国人と協力してプロジェクトを進めることなどの貴重な体験が出来ました。

Student's voice

機械システム
工学科 3年
利光正毅さん

予想以上の経験ができた10日間

韓国に行ってみた、ものづくりがしたいというぼんやりとしたイメージから、日韓デザインキャンプへの参加を決めました。しかし、実際は思っていた以上に非常に内容が濃くて、自分自身、大きく成長することができたと確信しています。限られた時間の中で英語で話し合い、試行錯誤しながら設計・製作していく過程で、ものづくりのプロセスを学べたことはもちろん、韓国・台湾の学生と打ち解けて通じ合えるようになったことも大きな収穫でした。

Student's voice

連築学科 2年
町田陽子さん

News

熊本から世界へーグローバル展開力の育成と強化ー

我が国の持続的な発展のためには、大学を含め社会のグローバル化が必要とされています。本学でも平成26年度に文部科学省の「スーパーグローバル大学創生支援」事業に採択されました。本学では「地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto」という構想のもと、全学で教育、研究、組織の国際化を推進しています。なお、タイトルにある「グローバル展開力の育成と強化」は、工学部120周年のスローガンでもあり、工学部としても今後グローバル化を目指すという強い意思を現したものです。

このような中、全学の施設として「グローバル教育カレッジ」を設置し、教育の国際化を推進しています。主な取り組みとしては、平成29年度から工学部、理学部、文学部、法学部が設置するグローバルリーダーコースがあります。本コースは、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身につけ、グローバルな視点で国内外の課題解決のための行動ができる人(グローバルリーダー)を育てるコースです。また、このコースには「レイト・スペシャライゼーション」という仕組みがあります。通常、工学部では入学時に学科を選択しますが、ここでは入学時には学科を限定せず、3年進級時に各自の適正に合わせて学科が選択できるようにしています。卒業後は、グローバル企業や国際機関(たとえば、国連、UNESCO、ISO等)などで活躍できる人材の育成を想定しています。国内外の大学院へも積極的にチャレンジしてもらいたいと考えています。

副学長 (国際交流担当)
グローバル教育カレッジ長
大学院先端科学研究部
高島和希 教授

なお、本コースの詳細に関しましては、順次、以下のウェブページで公開します。

<http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/college/glc/>お気軽に
ご相談
ください！

留学に関する情報収集やご相談は

熊本大学「地(知)の拠点整備事業COC Center of Community事業」
地域課題を解決できる人材の育成を目指します！

COC事業に関連し、これまでに実績のある熊本大学工学部
まちなか工房第111回学習会(平成27年11月17日)では、学生
による政策提案をおこないました。今後も教育効果や地域貢献
の取り組みの強化、支援を継続していきます。

●学生による政策提案：
「再開発を街に組み込む-熊本市中心部（桜町・花畑周辺地区）を対象に-」
関連科目：社会基盤計画（社会環境工学科）
指導者：熊本大学工学部社会環境工学科3年生
指導教員：田中尚人・星野裕司（自然科学研究科）



まちなか工房111回学習会の様子

Student's voice

社会環境工学科 3年
竹長健斗さん



いろいろな意見を聞き
話し合うことの大切さ！

社会基盤計画の講義を受けて、印象に残ったことは、グループで共通の目的に対して臨むことが非常に効果的であるということです。同じ問題に対して「このテーマから見たら?」「自分が以前所属していたチームから見たら?」という、自分では気づくことの出来ない一面や切り口を聞くこと、また意見そのものを班全員でより良い意見へともっていくことができ、グループでの話し合いの重要性を改めて認識しました。また、学んだこととして、地域の問題は自分が考える以上にそこに住む人々の立場となって考える必要があると感じました。

私は将来、地域に対し、そこに住まう人と同じ目線でいうまちづくりや地域活性化に努めていきたいと考えています。そのために何事もまず相手の立場に立って考えるといった基本的なことや、相手が本当に必要としていることを見極めていくことが重要であると考えます。人と人のつながりが重要な役割を占め、地域が形成され、その地域に向き合っていくので、出来ればいろいろな立場、世代の方々と交流し、自分の視野を広げていくと同時に、常に目標を持ち続けて前進して行きたいです。

Student's voice

社会環境工学科 3年
段里可子さん

知識を磨き
経験を積んでいきたい！

授業では、自分たちで現状分析や課題発見、提案を行いました。「坂町・花畑周辺地区の再開発をまちに組み込む」という具体的なテーマが与えられたことで、その手順が分りやすかったです。しかし、提案では、考えてはいたような発想をすることが難しく、かなり苦労しました。実現可能な範囲で魅力的な提案ができるよう、何度も考えました。まちなが工房での発表では、学内で行った時とは少し違う視点から意見や感想をいただくことが多く、多くの人と関わりながら進めていくことが重要だと思います。

今後は、授業で学んだことや感じたことをふまえて、知識を磨くだけではなく、さらに経験を積んでいきたいと思っています。社会や地域にもっと目を向け、日頃から課題発見を行っていきたいです。常に様々なことに興味を持ち、関わっていくことで自分の視野を広げていきたいと考えています。そして、人々が快適に暮らすことが出来るような環境をつくりたいという入学からの思いを社会において実現することが出来ればと思います。

CENTER OF COMMUNITY PROJECT

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+」
熊本の産業創生と雇用創出に貢献できる人材の育成を目指します！

「くまもと」を学んで「熊本」で活躍 ➡ 「熊本」で就職

熊本大学では、地方において存在意義のある国立大学として社会貢献事業を実施するにあたり、地方産業の活性化を支援し雇用創出に繋げるため、**熊本に特化した産学連携**を推進する「くまもと地方産業創生センター」を新たに設置しました。

このセンターは、熊本の自治体、産業界、研究機関等のオール熊本で地域産業の活性化及び雇用創出を図るための強固な連携体制の拠点となるものです。

オープンセンターとして開放することで、学生を含め、企業や自治体など、誰もが気軽に足を運べる場所とし、活発な人的交流と本学の知的資源の活用、企業から学生へ向けた人材育成等により、魅力ある地元産業の振興を支援し、若年層の地元定着に繋がるような雇用創出、地域課題解決を目指します。



くまもと地方産業創生センター長
熊本大学研究・社会連携担当理事・副学長
松本泰道



平成27年11月4日 熊本県民交流館バレーにて開催された
 ～くまもと地方産業創生センター設置～「オール熊本」で取り組む
 熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム(COC+)キック
 オフシンポジウムで手を取り合う熊本県内機関の関係者



熊本市内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増

【三大学ワークショップ】・・・・・・・・・・・・・・・・

工学部で3大学エンジニアリング
ワークショップを開催しました

このワークショップは、韓国亞洲大学校、中国山東大学、および熊本大学の工学分野に関する学術的交流を深化させ、今後の共同研究課題を見出すことを目的として、2008年の中国山東大学での初開催以降、各大学持ち回りで毎年、開催されてきているものです。第8回目を迎える今年は本学がホスト校となり、平成27年11月12日(木)～11月14日(土)の3日間にわたって、工学部を中心とした黒髪南キャンパスで開催しました。

より深い討論を行うために、今回は、以下の4つの学術分野の中でも特定の研究テーマを設定し、それらについて教員と博士課程の学生による研究発表、およびを博士前期や学部生によるポスターセッションを行いました。

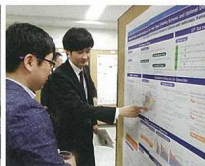
1. Computer Science and Electrical Engineering
 - 1-1 Frontier Technology of Energy and Devices
 - 1-2 Data Engineering
 - 1-3 Human-centric Sensing
2. Applied Chemistry and Chemical Engineering
 - 2-1 Biomass Utilization
 - 2-2 Energy and Environment
 - 2-3 Functional Polymers
3. Mathematics and Engineering
 - 3-1 Stochastic Analysis and its Applications
 - 3-2 Combinatorics and Related Areas
4. Others
 - 4-1 Transportation Planning and Technology
 - 4-2 Research Collaboration in Engineering

本ワークショップには韓国亞洲大学校から22名、中国山東大学から13名、本学から81名、合計116名の参加があり、そのうち、13日に開催された口頭発表とポスター発表にはそれぞれ51件、29件の発表があり、大盛況でした。口頭発表セッションとポスターセッションにはベストプレゼンテーション賞を設け、厳正に審査した結果、本学の学生諸君が多くの賞を獲得しました。

学術的交流だけでなく、本学や工学部のもつ歴史・環境や研究ポテンシャルを紹介するために、韓国、中国からの留学生の案内による五高記念館などの学内の歴史遺産ツアーや研究室訪問ツアーも行いました。また、来日された13日には歓迎パーティ会、14日には公式バンケットを開催して交流を深めました。また、15日には熊本城や阿蘇などのツアーと日本の居酒屋を味わって頂きました。韓国、中国からの参加者は本学工学部の研究水準や各種アクティビティの高さとキャンパス環境のすばらしさに感銘を受けられたようです。来年は韓国亞洲大学での再会を約束して、閉会しました。



開会式での3大学の代表



ポスターセッションの様子



優秀発表賞の授与



日本の居酒屋体験

平成27年度
工学部副学部長
溝上章志 教授

The 2015 Engineering Workshop Program on November 13									
Registration	8:40 ~ 9:00	Room 4 (Proceedings, Name cards, Schedule, etc.)							
Opening	9:00 ~ 9:30	Room 4							
Campus Tour	9:30 ~ 10:35	Taking photographs, Visiting Fifth School Memorial Museum and Museum of the Engineering Faculty (The Engineering Heritage Museum)							
Presentation	Research Field (see abbreviations below)	CSEE	ACCE	ME	TPT				
	Venue (see venue information below)	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5			
	Morning Session (20 min*4)	10:40 ~ 12:00	C1 ~ C4	A1 ~ A4	A5 ~ A12	M1 ~ M4	T1 ~ T4		
	Lunch Time	12:00 ~ 12:35	All Each Session Venue						
	Afternoon Session 1 (20 min*4)	13:00 ~ 14:20	C5 ~ C7	A5 ~ A8	A9 ~ A16	M5 ~ M8	T5 ~ T8		
	Afternoon Session 2 (20 min*4)	14:20 ~ 15:40	Room 6: P1 ~ P29 (1min-29 for flash presentations)						
Closing Ceremony	Afternoon Session 3 (20 min*4)	15:45 ~ 17:25	C8 ~ C9 and Lab Tour	Lab Tour	M9 ~ M13	T9 ~ T13			
	Banquet	18:30 ~	Room 4 KCR Hotel Kumamoto, Japanese Restaurant MATSUBO						
Note: One oral presentation: 20 min (presentation 15min, Q&A 5min), C1 means abstract No.1 in CSEE field.									
Abbreviations	Research field				Oral	Poster			
CSEE	Computer Science and Electrical Engineering				9				
ACCE	Applied Chemistry and Chemical Engineering				16				
ME	Mechanics and Engineering				13	29			
TPT	Others (Transportation Planning and Technology)				13				
	Total				51				
Venue Information	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5	Room 6			
	SKT(2F), Room 206	FEI(2F), Conference Room B	FEI(2F), Conference Room C	FEI(2F), Conference Room A	FEI(4F), Studio	FEI(6F), Studio			
SKT: Sogo Kenkyo Fm and FEI: Faculty of Engineering Building No.1									

Program2015



参加者の集合写真

【中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会】・・・・・・・・

第13回 技術相談会
あなたが考えた自由研究テーマの相談をしませんか？

担当者：技術部 技術専門員 矢北孝一

熊本大学工学部の主催で、第13回中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会を工学部百周年記念館と実験室等において平成27年8月2日(日)に開催しました。

技術相談会では、熊本市内：69名(32校)、熊本市外：27名(2校)の申し込みがあり、延べ99名の参加となりました。中学生が身近な自然現象等に興味や疑問を持った研究テーマが22件、合計45件の研究テーマについて、工学部の技術職員と大学院自然科学研究科の教職員が実験等を交えて、その対応と指導にあたりました。

この技術相談会の開催によって、理科の実験や観察、工作を通して、自然科学に関する興味を啓発し、自然科学、工学である理系進学を目指す契機になったものと考えられます。また当日は、国指定重要文化財である「工学部研究資料館」を開放し、大学の歴史に触れる良い機会にもなりました。

技術相談会に参加された中学生の皆さんと保護者の方々及び、学校関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、ご支援とご協力いただきました関係機関の皆様、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



工学部研究資料館の様子



百周年記念館での相談風景



研究室での相談風景



【学生が挑む社会貢献：技術を学んで作品を提供】・・・・・・・・

盲学校向け学習支援機器の開発と寄贈

担当者：技術部 技術専門員 須恵耕二

全盲児の学習を支援する学習機器を開発し、全国の盲学校に寄贈する取り組みは今年で5年目に入ります。これまでに全国70以上の盲教育機関に5種類130台余のオリジナル教具を寄贈してきました。最近では「こんな教具を作れないか」という要望が届く等、技術で社会貢献する新しい取り組みとして全国の関係者から期待されています。

この活動に参加している工学部生らは昨年「音声点字サークル Soleil」を立ち上げました。3つの学生向け公募型プロジェクトで採択を受け、現在約30名が開発と製作に挑んでいます。その成果として、学生が開発した第一号機が全国10校の盲学校へと贈られました。また夏休みには、高校生16名が製作・寄贈に挑むイベントを開催(3回目)し、6名の学生が高校生に製作指導を行う等、活躍の場を広げています。

「技術は人を幸せにする」という理念の下、技術職員と工学部生がコラボして全盲の子供たちの学習を支援する取り組みは、一歩ずつ前進し続けています。



新教具の開発手法を学ぶ学生

【学科便り】

建築学科



平成27年度
建築学科長
伊東龍一 教授

教員と学生が一体となって、 真に魅力的な建築や都市の創造に取り組む学科です

建築学の世界は広く深いものです。単なる工学の範囲をこえて、それは人間と人間をとりまく世界全体に及んでいます。ですから人が建築を学び尽くすということはありません。大学の4年間では、学生諸君が本気で建築に取り組んでゆく覚悟を持てばよいのではないのでしょうか。知識の吸収よりも大事なことです。

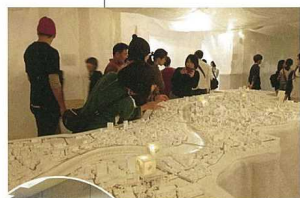
さて、本学科は本年度4月に57名の1年生と6名の3年次編入生を迎え、大学院博士前期課程に42名が進学しました。

入学すると様々な行事があります。1年生の6月には1泊2日の合宿研修があります。2～3年生は一番落ち着いて勉強できる時期です。その成長ぶりがみえるのが、3年生が中心となり11月初旬の大学祭(紫熊祭)に合わせて自主的に開催する建築展です。是非足をお運び下さい。一方で3年生の夏休みには、希望する実習先で職場体験をするインターンシップがあり、

将来の進路を考える機会ともなっています。4年生になると、卒業研究が待っています。本学科は卒業論文と卒業設計の2本立てで、学生諸君にとっては蓄えてきた4年間の力をぶつけるチャンスです。

卒業後の進路は、約50%が大学院進学、約33%が建設・住宅関連、約3%が設計事務所・コンサルタント関連、約3%が鉄鋼・建材・エネルギー・設備関連、約10%が公務員・その他です。いずれにしても就職について心配する必要はまったくありません。卒業生の実力も、一級建築士合格者数が全国的にもトップレベルにあることが証明しています。

建築を学び始めた学生諸君は、教職員にとっては同じ道を歩む同志です。大事ではないかもしれませんが、保護者の皆様にもどうかじっくりと見守って頂きますようお願い申し上げます。



上/2015年度 建築展
(展示風景)
下/建築展は展示内容が評価
され表彰されました

数理工学科

設立から10年。 数学と工学の両方に通じた人材が着実に育っています

数理工学科は、現代数学と工学技術、両方に通じた人材を育成するために平成18年に設立され、教員9名、事務職員1名の計10名のスタッフで学生および大学院生の教育および研究に一元となって取り組んでおります。

本年度は、12名の新生入生と2名の3年次編入生、6名の大学院生を迎え、新年度をスタートいたしました。学科設立以来、毎年新生入生研修旅行を行っており、今年度は5月17日に実施しました。最初に宇城市三角町にある「食と農の体験塾」に参加し、パンやビザなどの作成体験を楽しみながら、食と環境保全の重要性および今後のエネルギー供給方法について学びました。続いて、最近世界遺産候補として選定されたという大きなニュースとなった「三角西港」を訪れました。西洋風の美しい建築物や明治三大築港とされる埠頭を散策しながら優雅なひとときを過

しました。この研修旅行は新生入生以外については自由参加ですが、今年度も学部上級生から大学院生・留学生まで多数参加し、新生入生との親睦をはかることができました。

昨年度は就職担当として学生の就職活動の支援に携わりました。おかげさまで非常に多くの企業が本学科へ大きな関心を寄せて頂き、160社以上から求人資料を頂くと共に、大変多くの就職担当者を迎え入れて熱心なご勧誘を頂きました。教職、情報システム関連企業や金融システム関連企業への就職が多数を占めることが、この数年間の本学科・本コースの卒業生・修了生の特徴です。彼らの多くが数理工学科で学んだことを活かして社会で活躍することを心より願っております。

最後に、保護者の皆様方の今後のご活躍とご発展をお祈りいたします。



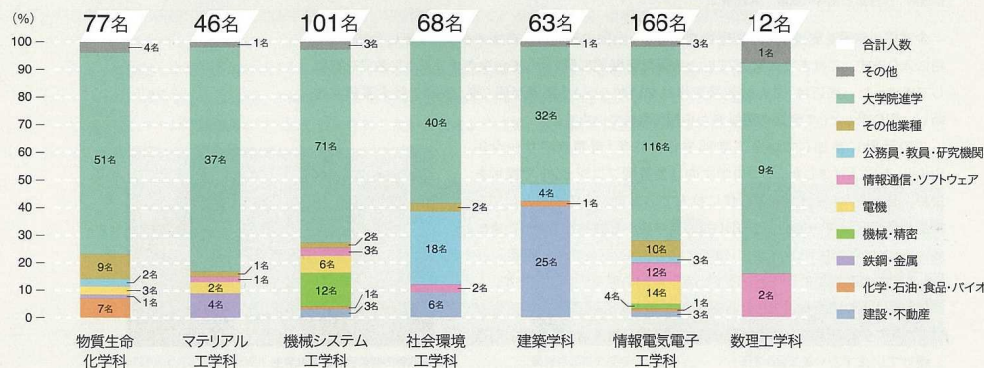
平成27年度
数理工学科長
城本啓介 教授



食と農の体験塾での
新生入生研修旅行

【進学・就職情報】

平成26年度 卒業生進学・就職状況



就職連絡会便り

短期決戦の就職活動(しっかり勉強し、しっかり就職する)

平成27年度の卒業・修了予定者から、会社説明会等の広報活動は3月開始に、採用選考活動の開始時期は8月開始に変更されました。また、平成28年度の採用選考活動の開始時期は更に6月開始に変更されました。情勢は猫の目のように変化する印象ですが、変更の目的は、言うまでもなく学生の就職・採用活動の早期化・長期化は正です。結果的に、就職活動は短期決戦になりました。

しかし、このような変化に工学部の皆さんが惑わされる必要は全くありません。安心して後学期の定期試験までは、しっかりと大学の勉強をして下さい。また、3月からは会社の説明会等を利用して希望する会社の情報を把握し、最終的にしっかりと就職を決めるようにして下さい。工学部学生の場合、必要以上に沢山の会社にエントリーする必要もありませんので、これが可能です。

ここでは、情報を逃がさないことが極めて重要です。昨年の秋に工学部の全学科の学生を対象とした就職ガイダンスを開き、年末から年度末にかけて各学科で開かれる予定の学科の就職ガイダンスの日程をお知らせしました。工学部の場合、各学科で就職活動は異なっています。各学科の就職支援担当の教員との情報のやり取りを確実なものにして、必要な情報を逃がさないようにして下さい。就職支援担当の教員との面談やメールによる相談と報告を確実にして、「しっかり勉強して、しっかり就職する」態度で就職活動を乗り越えて下さい。応援します。



平成27年度
工学部就職連絡会委員長
岡部 猛 教授



工学部就職ガイダンスの様子

【卒業生の声】



松井 十和子さん

自然科学研究科博士前期課程 材料システム専攻 修了(平成18年)
 [勤務先] 株式会社ジェイテクト
 研究開発本部 材料研究部 金属材料研究室

..... やりがいエピソード

現在、私は軸受の熱処理の研究開発に携わっております。学部、大学院で学んだ多くの金属材料に関する知識が活かされる仕事です。当社の研究内容のハードルは高く、悩み、勉強の毎日ですが、まだ誰も知らないことを知ること、まだ誰も実現出来ていないことを実現出来ることが大変面白く、やりがいを感じる事ができる職場です。近い未来、自分が携わった部品が搭載された自動車や設備が市場に出ることを夢見て、日々楽しみながら仕事を行っています。

..... 後輩にメッセージ

仕事は多くの人と協力して行わなければならないため、コミュニケーション力は大変重要であり、いろんな人と接することで磨かれます。様々な考え方を持つ人と話し、人それぞれのものの見方や価値観を知ることが、自分自身を知ることにも繋がり人間的な成長の機会を与えてくれます。大学在学時は、先生、先輩、後輩、友人、アルバイト先の関係者等、多くの人と出会う機会がありますので、是非、社会で活躍するための準備として積極的に話す機会を作って欲しいと思います。最後に、大学時代に苦楽をともにした友人は一生の友人です。今でも落ち込んだときに自分を鼓舞するのは、頑張っている友人の姿です。一緒に全力で遊び、全力で勉強・研究に励み、有意義な学生生活を過ごして下さい。

【在校生の声】



アルバータ大学 英語・文化研修セミナーに参加して

不安はいつしか小さな自信へ

河邊優理さん 物質生命化学科 2年

1年の夏休み、春休み何をしたかも記憶にない私は2年の夏休みこそ充実したものになりたいと思い今回の研修への参加を決めました。参加するにあたって、ろくに英語で会話をしたことのない私は、英語だけの生活に不安しかありませんでした。当初は周りとの差を感じ焦りもありましたが、授業、ホームステイ、アクティビティを通して、少しずつ英語を身に付けていくことができました。授業でインタビューの宿題が出たとき、誰もが優しく応じてくれて私のつたない英語を最後まで聞き取ってくれて、カナダの方々の優しさを感じると共に不安も少しずつなくなってきました。このような環境の下で英語を学ぶことができて本当に良かったです。実際に、研修への参加はかなり悩み勇気をだして参加したのですが、普段できないようなたくさんの体験をさせてもらい、多くのものを得ることができました。このような経験をさせてもらったのも、両親はもちろん、研修に関わったすべての方のおかげです。この感謝を忘れずにこの経験をこれからに活かしていけるように努めていきたいと思っています。

平成27年度 工学部学生の受賞

※所属と学年は受賞時のものです

【学業成績優秀者】

学長表彰

栗屋恵介 物質生命化学科 4年

工学部長表彰

鬼丸和弥 マテリアル工学科 4年

西岡大輝 機械システム工学科 4年

水野純生 社会環境工学科 4年

徳山祐一 建築学科 4年

松崎貴之 情報電気電子工学科 4年

今村教博 数理工学科 4年

【受賞者】

■木村翔平 [情報電気電子工学科 4年]
 日本音響学会 九州支部学生表彰

■川島賢士 [マテリアル工学科 4年]
 日本鉄鋼協会 第169回春季講演大会
 学生ポスターセッション 努力賞

■堀田伸明 [マテリアル工学科 4年]
 日本鉄鋼協会 第169回春季講演大会
 学生ポスターセッション 努力賞

■福倉慎哉 [マテリアル工学科 4年]
 日本金属学会 日本鉄鋼協会奨学賞

■新谷 廉 [社会環境工学科 4年]
 Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ

■松崎貴之 [情報電気電子工学科 4年]
 第14回情報科学技術フォーラム(FIT2015) イベント企画
 「第6回相模秀夫杯デザインコンテスト The 1st RECONF/
 CPSY/ARC /GI Trax デザインコンペティション」
 エンベデッド部門 第3位、および運営委員長特別賞

■中村圭志 [機械システム工学科 4年]
 Young Scientist Award

■中村圭志 [機械システム工学科 4年]
 Third Prize of Poster Competition Award

■松本将太 [機械システム工学科 4年]
 Excellent Poster Award

■山福紗野 [物質生命化学科 4年]
 J.I.S.R.I.- e-Asia 2015 Excellent Award (優秀賞)

■橋元昭人 [物質生命化学科 4年]
 J.I.S.R.I.- e-Asia 2015 Poster Award

■有島敬太 [機械システム工学科 4年]
 精密工学会九州支部 2015年度 飯塚地方講演会
 ベストプレゼンテーション賞

■田淵之子 [情報電気電子工学科 4年]
 電子情報通信学会九州支部 学生会講演奨励賞

かけはし

工学部広報委員会 (平成27年度)

川越保徳、松浦博孝、森園靖浩、森和也、田中尚人、高田真人、
 芦原 評、中村能久、上村実也

熊本大学工学部ニュースレター No.27

※「かけはし」についてのご感想やご意見をお寄せください。

E-mail: szk-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学自然科学系事務課総務担当

Tel:096-342-3513 Fax:096-342-3510